地方独立行政法人 北九州市立病院機構 北九州市立医療センター

緩和ケアセンター ニューズレター

Rainbow Bridge

vol.9
2022.January

AYA世代のがん患者さんが利用できる社会資源について

緩和ケアセンター　専任社会福祉士　髙山 由磨

緩和ケアで対応する苦痛には身体的苦痛、心理的苦痛、スピリチュアルペインの他に社会的苦痛が存在します。これらの痛みは相互に関係しており、全人的苦痛に対して緩和を行うという視点が大切になります。社会的苦痛の具体例として経済的相談や在宅・社会復帰相談などが挙げられます。これらの相談を解決していく上で様々な社会資源とへと繋ぐことがあります。その中で福岡県が補助金事業である「小児・AYA世代がん患者在宅療養生活支援事業」について紹介します。

AYA世代とはAdolescent&YoungAdultnoの略で１５歳から３９歳の思春期・若年成人の方を指します。

「小児・AYA世代がん患者在宅療養生活支援事業」とは・・・

目的	がん患者さんが住み慣れた自宅で安心して生活を送ることができるよう 在宅介護サービスに係る利用料を助成。
対象サービス	訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具の貸与・購入
自己負担	サービス費用の１割（利用上限額は６万円）

・従来、介護保険対象外であるAYA世代のがん患者さんが上記のサービスを利用するにあたっては１０割負担での利用になるなど経済的負担が大きい等の課題がありました。この事業の始まりによって在宅復帰に向けて身体的、心理的、そして社会的も負担軽減を行うことができるためより多くの方が在宅復帰も考えることが出来るのではないかと思います。
・利用についてのご相談がありましたら緩和ケアセンター髙山、もしくはがん相談支援センターまでご連絡下さい。

＜参考資料はこちら＞
小児・ＡＹＡ世代がん患者在宅療養生活支援事業のご案内 - 福岡県庁ホームページ
（https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/gan-zaitaku.html）（fukuoka.lg.jp）

北九州市若年がん患者在宅療養生活支援事業のお知らせ - 北九州市
（https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/17200405.html）（kitakyushu.lg.jp）

＼緩和ケアチームメンバーによる／ おすすめ1冊

—今月の紹介者—
臨床心理士　兵頭　憲二

『みえるとか　みえないとか』
著者　　ヨシタケ　シンスケ
そうだん　伊藤　亜紗
出版　　アリス館

宇宙飛行士の主人公「ぼく」が、いろいろな宇宙人と出会いながら「自分の当たり前」と「相手の当たり前」の違いに思いを巡らせていく…。そんな内容の絵本です。
同じ病気でも、人それぞれにつらさも違えばつらさの表現の仕方も違います。その人に真摯に向き合うことでしかわかってこない、それでもわかりきることなど到底できない「その人のつらさ」があります。
かわいい絵とユーモアあふれるストーリーを通して、そんな「当たり前なのだけれど、つい忘れがちで、とても大事なこと」を思い出させてくれる本です。ぜひご一読ください。